

# と やま 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

富山県西部森林組合 砺波支所 臨時職員 前田 久儀さん

今回ご紹介する方は、富山県西部森林組合 砺波支所の臨時職員として活躍し、中間土場の番人としてお勤めの前田久儀さんです。



まえだ ひさよし 前田 久儀さん

## 1 現在の業務

南砺市大鋸屋にある中間土場施設で、森林整備等により管内から搬出されたスギ間伐材や主伐材の選別作業を行われています。

## 2 現在の職場に勤務するきっかけ

前職をお聞きすると、大工・民間建設会社まで様々なお仕事を経験された後、約20年前に(故)天井一夫氏(旧砺波森林組合・現富山県西部森林組合砺波支所)の誘いを受け、森林組合に入られました。林業に関しては、以前に勤めていた建設会社では送電用鉄塔を建設する際の立木伐採を専門としていたことと、

親が森林組合の作業員として長らく働かれていたことから、何ら抵抗はなかったそうです。

## 3 中間土場での挑戦など

中間土場では、素材の仕分けに欠かせない重機である「ログローダー車」を、まるで、ご自身の手足を動かすかのように、無駄な動きもなく操作されておられます。お聞きすると「長年の感覚が、体に染み付いており、自然に動いてしまします。」「杉の皮一枚や番線1本でもグラップルで掴めます。」と笑顔で答えてくださいました。

仕分け作業で注意されている点は、素材の行先(納入先)により、材長や材質を瞬時に見極め選別し、後からクレームが無いよう努めること。『自分の仕事は、木材の関所である。』ことを自負されています。また、仕分け側から現場の伐採側へ願うことは、「綺麗な造材と枝払いなど少しの手間で、B材がA材になる。」と話されました。

## 4 今後の林業展望等

「森林整備は自然破壊だ、と言う人がいた。何故そう思うのか更に聞き込んだところ、作業道などの道が自然破壊と思ひ込んでいることが分かったため、森づくりに必要なもので

あり、使用しなくなれば山に戻るように作られていることを説明し理解してもらえた。」とのこと。今後も同様に説明を継続し、取り組むことが重要と考えられています。

## 5 今後の抱負

早く中間土場の仕分け後継人を育てたいし、若い方には「伐倒作業は、特に早い仕事より安全性に注意することを強く言いたい。」と話されました。今後ますます活躍されることを期待しています。



選別作業中の前田氏

文責 砺波農林振興センター林政・普及班